

平成 20 年度

開館 10 周年記念特別展「清方の美 —その叙情—」

開館 10 周年を記念し、画家として歩み始めた明治期から、新進の日本画家として画壇から注目を集め、文部省主催の官展などに活躍の場を見い出していた大正期にかけての叙情あふれる美人画を中心に紹介した。

会期 平成 20 年 4 月 24 日(木)～平成 20 年 5 月 28 日(水) (開館日数:31 日)
総入館者数 4,449 人(一日平均:143 人)



関連事業

- 開館 10 周年記念講演会「波乃久里子さんによる新派と鏗木清方の美人画」
【ゲスト】波乃久里子氏(女優)【司会】久能靖氏(ニュースキャスター)
【日時】平成 20 年 4 月 26 日(土)14:00～15:00
【会場】鎌倉市生涯学習センターホール(きらら鎌倉)

関連記事

- 「開館 10 周年記念特別展 24 日から「五月雨」など展示」(4 月 15 日 毎日新聞)
「鏗木清方記念美術館 特別展「開館 10 周年記念展 清方の美～その叙情」」(4 月 15 日 広報かまくら)
「鏗木清方記念美術館が 10 周年」(4 月 16 日 メディアジャム)
「美人画愛され 10 周年 24 日から節目迎え特別展も」(4 月 17 日 神奈川新聞)
「開館 10 周年鏗木清方記念美術館で特別展」(4 月 25 日 タウンニュース)
「鏗木清方記念美術館 特別展開館 10 周年記念 清方の美—その叙情—」
(4 月 25 日、5 月 25 日 藤沢市の生涯学習情報誌 学びの道あんない)
「美術館・文学館めぐり 鏗木清方記念美術館 清方の美～その叙情」(5 月 1 日 鎌倉朝日)
「平成 20 年度 鏗木清方記念美術館展示予定」(6 月 平成 20 年度版生涯学習ガイドブック)

出品作品

作品名	制作年	技法/材質・形状	サイズ	所蔵
五月雨	大正 6 年(1917)頃	絹本着色・軸	144.2×50.5	個人蔵
朝涼(ちょうりょう)	大正 7 年(1918)	絹本着色・軸(対幅)	145.5×50.5	個人蔵
五月晴	大正 2 年(1913)頃	絹本着色・軸	137.0×51.0	個人蔵
酒中花	制作年不詳	絹本着色・軸	40.5×51.0	個人蔵

【所蔵品】

- 「浅みどり」「孤児院」「秋宵」「嫁ぐ人」「夏の思い出(部分)」「二人静」「襟おしろい」「僧房春蘭(牡丹の寺)」「大和路の或る家」「柳の下に涼む娘」「あじさい」
下絵 「お夏清十郎物語 第 4 図」「お夏清十郎物語 第 6 図」「風鈴」「江戸風俗」「江戸十五題 八幡鐘」
「卯月の宵(小下絵)」「紫陽花の谷」「五月雨」
スケッチ 「林檎の花」「花菖蒲」(2 点)「僧房春蘭(牡丹の寺)」「堀切菖蒲園」「牡丹」
口絵 「菊池幽芳著『月魄』藤乃の巻」「梅雨五題(笹団子) (『女性』)」
『文藝界』口絵 「夕涼み」「浴後」
『文藝倶楽部』口絵 「白鳥」「鸚鵡」「爪紅」
『清方美人畫譜』 表紙、「幕間(下絵、木版刷)」「春雨の寮(下絵、木版刷)」「青き星(下絵、木版刷)」「濱町河岸の秋(下絵、木版刷)」「午後の海(下絵、原色版)」「白壁(下絵、原色版)」「湖のほとり(下絵、原色版)」「五月雨(原色版)」「初雪(原色版)」「島田くづし(原色版)」
「一畫一文 堀切(『鏗木清方文集 五 名所古跡』)」

特別展 清方生誕 130 年記念「鏑木清方展」

明治 11 年(1878)に誕生した清方の生誕 130 年を記念し、清方の出発点である雑誌の挿絵をはじめ、官展で活躍した時代に描かれた作品を中心に紹介した。

会期 平成 20 年 5 月 31 日(土)～平成 20 年 7 月 6 日(日)

(開館日数:31 日)

※7 月 2 日～一部展示替

総入館者数 3,848 人(一日平均:124 人)



関連記事

「開館 10 年、生誕 130 年の節目 県外で大規模展の試みも」

(5 月 19 日 神奈川新聞)

「鏑木清方生誕 130 年記念 特別展 7 月 6 日まで」(6 月 1 日 広報かまくら)

「平成 20 年度 鏑木清方記念美術館展示予定」

(6 月 平成 20 年度版生涯学習ガイドブック)

「清方の生誕 130 年 特別展」(6 月 13 日 タウンニュース)

「特別展 清方生誕百三十年記念 鏑木清方展」(6 月 15 日 月刊書道界)

「鏑木清方記念美術館 特別展 清方生誕 130 年記念 鏑木清方展」

(6 月 25 日 藤沢市の生涯学習情報誌 学びの道あんない)

「鎌倉市鏑木清方記念美術館 特別展 清方生誕 130 年記念「鏑木清方展」」(7 月 1 日 鎌倉萌)

「展覧会のススメ 特別展 清方生誕 130 年記念鏑木清方展」(7 月 20 日 美術の窓)

出品作品

作品名	制作年	技法/材質・形状	サイズ	所蔵
目黒の栢菴	昭和 8 年(1933)	絹本着色・画卷	53.8×489.0	東京国立近代美術館蔵
女歌舞伎(小下絵)	明治 43 年(1910)	紙本墨画淡彩	33.0×66.0	同上
鯛	昭和 12 年(1937)頃	絹本着色・軸	72.0×86.0	同上
絵双紙屋の店	大正 8 年(1919)	絹本着色・軸	143.0×51.0	弥生美術館蔵
おぼろ夜	大正 14 年(1925)頃	絹本着色・軸	125.5×41.3	同上
濡髪	昭和 10 年(1935)頃	絹本着色・軸	120.5×35.5	同上

【所蔵品】

「曲亭馬琴」「朝涼」「慶喜恭順」「年増美人」「夏の柳井戸(柳乃井戸)」「山百合」「朝夕安居 昼」「ゆかた」

「初雁の御歌(小下絵)」「黒髪(小下絵)」

「注文帖畫譜」

スケッチ 「曲亭馬琴」「朝涼」「慶喜恭順」「女歌舞伎(関連スケッチ)」

『新小説』口絵 「川上眉山著『店暖簾』」「小栗風葉著『沼の女』」「中村春雨著『くもり日』」

「島崎藤村著『津軽海峡』」「川上眉山著『八重子』」「後藤宙外著『五日市』」「眞山青果著『空虚』」

「前田曙山著『銅臭』(新緑)」

『文藝俱樂部』口絵 「夜長」「梅雨晴」「そぞろあるき」「白鳥」「ゆふ暮」「いで湯の夕べ」「湯治場」「蚊遣の煙」

『文藝俱樂部』 「兒島晴濱著『道途』挿絵、校正摺、下絵」「寶井馬琴講演『關ヶ原七本槍』挿絵、校正摺 2 点」

『苦樂』 「花野」「あまのがは」「錦繡の秋」「西鶴のお七」「田舎源氏」「花菖蒲」「菖蒲湯」

「湯の宿」「無題(昭和 24 年臨時増刊號)」

「参考図版:女歌舞伎(『文部省第四回美術展覧會傑作畫 受賞品日本畫の分』)」

収蔵品展「鏡花作 清方描く」

鏑木清方は、泉鏡花の愛読者であった。清方が一流の挿絵画家を目指していた頃、既に鏡花は新進気鋭の作家として脚光を浴びており、何とかしてその著作に挿絵を描きたいと願っていたが、明治34年(1901)、ついに鏡花との対面を果たす。鏡花も清方の絵に以前から関心を抱いており、挿絵に対する考え方などで意気投合した。これが機縁となって、「鏡花作、清方描く」の交際は始まった。鏡花作品の挿絵のほか、鏡花が清方宅を訪問する様子を描いた「小説家と挿絵画家」(下絵)など、作家と画家の交わりのなかで制作された作品を紹介した。

会期 平成20年7月10日(木)～平成20年9月3日(水)(開館日数:48日)
総入館者数 2,915人(一日平均:60人)



関連事業

「夏休み子ども参加プログラム」

【テーマ】「鳥獣戯画」を模写しよう！

【開催期間】平成20年7月30日(水)・31日(木)、8月7日(木)

「夏休み親子鑑賞」

【開催期間】平成20年7月19日(土)～8月31日(日)

関連記事

「鎌倉市鏑木清方記念美術館 収蔵品展「鏡花作、清方描く」(6月 三浦半島だより)」

「鎌倉市鏑木清方記念美術館収蔵品展「鏡花作、清方描く」(7月1日、8月1日 鎌倉萌)」

「鏑木清方記念美術館収蔵品展「鏡花作 清方描く」9/3(水)まで」(7月15日 広報かまくら)

「鏑木清方記念美術館一収蔵品展―「鏡花作、清方描く」(7月18日 ぼど)」

「鏑木清方記念美術館 収蔵品展「鏡花作、清方描く」

(7月25日、8月25日 藤沢市の生涯学習情報誌 学びの道あんない)

「美術館・文学館めぐり「鏡花作、清方描く」展」(8月1日 鎌倉朝日)

「鏡花との交流焦点に 鏑木清方美術館で収蔵品展」(8月22日 神奈川新聞)

「平成20年度 鏑木清方記念美術館展示予定」(6月 平成20年度版生涯学習ガイドブック)

出品作品

「一葉女史の墓」「深沙大王」「金色夜叉」「ふたつあちさみ」「註文帖」

「小説家と挿絵画家(下絵)」「築地明石町(下絵)」

「泉鏡花著『三枚續』口絵、口絵下絵、表紙装丁、袋装丁」「泉鏡花著『戀女房』口絵」「泉鏡花著『神鑿』口絵」「泉鏡花著『無憂樹』口絵下絵、口絵校合摺」「泉鏡花著『風流線』袋装丁、口絵、口絵下絵、口絵校合摺、口絵差上げ、口絵校正摺」

「泉鏡花著『式部小路』口絵、口絵差上げ」「泉鏡花著『婦系圖 後編』口絵校合摺」

「泉鏡花著『芍薬の歌』『現代長篇小説全集』口絵下絵」「泉鏡花著「高野聖」『今様絵詞の会』口絵下絵」

「泉鏡花著「高野聖」『現代名作集別巻』口絵原画、口絵下絵」「泉鏡花著「深沙大王」『文藝倶楽部』校正摺」

『新小説』口絵 「泉鏡花著「瓔珞品」」「泉鏡花著「起誓文」」「泉鏡花著「舞の袖」」「泉鏡花著「紅雪録」」「泉鏡花著「胡蝶之曲」」「泉鏡花著「楊柳歌」」「泉鏡花著「伊勢之巻」口絵校合摺」

「鏑木清方・鰭崎英朋画、泉鏡花賛「畫博堂 引札」」「泉鏡花著・鏑木清方装丁『風流線』単行本」

「泉鏡花著・鏑木清方装丁『風流線』表紙絵」「泉鏡花著・鰭崎英朋装丁『續風流線』表紙絵」

「泉鏡花著・鏑木清方装丁『鏡花全集』単行本」「泉鏡花著「婦系圖」『鏡花選集第3巻』表紙装丁」

「泉鏡花著『三枚續』単行本」「泉鏡花著『伊勢之巻』(『新小説』)」

「泉鏡花著「高野聖」(『苦樂』)」」「泉鏡花著「紅梅屋敷」(『苦樂』)」

「泉鏡花著『薄紅梅』」「泉鏡花著「名作絵物語 日本橋」(『苦樂』)」

収蔵品展 「清方の美 秋の情趣」

清方は、徐々に深まりゆく秋の情景を、繊細な筆遣いで描きわけている。作品では、背景に糸瓜や朝顔の花が咲く中、浴衣の襟をかき合わせる女性の仕草や表情で、秋の訪れを表現。また、ほおづき遊び、栗むき、薄が広がり夕焼けが空を覆う風景などで秋の叙情を描きだしている。

豊かな秋の情景を題材にした作品を展示した。

会期 平成 20 年 9 月 6 日(土)～平成 20 年 10 月 29 日(水)

(開館日数:46 日)

総入館者数 4,658 人(一日平均:101 人)



関連記事

「鎌倉市 鎌倉清方記念美術館 収蔵品展「清方の美 秋の情趣」

(6 月 三浦半島だより)

「鎌倉清方記念美術館 収蔵品展「清方の美 秋の情趣」

(7 月 25 日、8 月 25 日、9 月 25 日、10 月 25 日 藤沢市の生涯学習情報誌 学びの道あんない)

「古都を日帰り散策 鎌倉で過ごす秋の一日。」(8 月 10 日 いきいき)

「Friday かながわイベントガイド 収蔵品展「清方の美 秋の情趣」」(9 月 12 日 読売新聞)

「鎌倉清方記念美術館 収蔵品展 清方の美 秋の情趣」(9 月 15 日 広報かまくら)

「鎌倉市 鎌倉清方記念美術館 収蔵品展「清方の美 秋の情趣」」(10 月 1 日 鎌倉萌)

「秋の美術館・文学館めぐり 鎌倉清方記念美術館 清方の美・秋の情趣展」(10 月 1 日 鎌倉朝日)

「収蔵品展 「清方の美 秋の情趣」」(10 月 6 日 YOMIURI ONLINE)

「平成 20 年度 鎌倉清方記念美術館展示予定」(6 月 平成 20 年度版生涯学習ガイドブック)

出品作品

「栗をむく娘」「ほづき」「孤児院」「教誨」「雑司ヶ谷会式」「新大橋之景(双幅)」「水汲」「虫の音」

「夏の生活(部分)第17・27図」「君ヶ寄漫筆(金沢絵日記の二)第1、23図」

下絵 「瀧野川観楓」「菊花節」「十一月の雨」「大川際のむきみや(『今様絵詞の会』)」

スケッチ 「葡萄」「教誨のための巢鴨風景」「菊」(2 点)「水汲」「萩」(2 点)「游心庵 柘榴」「游心庵 むくげ」「柿もみち」

「柿」「露草」「残柿」「柘榴」「小菊」「桜と鶯の紅葉」

『新小説』口絵 「祝ひ月(東京風俗)」「秋江(一情一景)」

『婦人世界』口絵 「星多き夜」「散るいてふ」

『文藝倶楽部』口絵 「よき事さく」「八幡鐘」「小春」「ひともし頃」「こすもす」

『講談雑誌』口絵 「秋のおとづれ」「九月の海(清方画譜の九)」「旅愁(清方画譜の十)」「朝寒(清方画譜の十一)」

口絵 「渡邊霞亭著『勝鬨』中編」「ほづき」「尾崎紅葉著『金色夜叉』鳴澤宮の像(『婦人倶楽部附録』)」

挿絵 「尾崎紅葉著『金色夜叉繪巻』」「秋探し(『婦人公論』)」「初冬(『中央公論』)」「秋暉(『婦人公論』)」

『清方美人画譜』より「青き星」「濱町河岸の秋」

「大川際のむきみや(『今様絵詞の会』)(参考図版)

特別展 清方生誕 130 年記念「清方の芝居絵」

芝居絵は江戸時代には浮世絵の主題のひとつであったが、明治になると、浮世絵師以外の画家も描くようになった。幼い頃から、父母の影響により歌舞伎に慣れ親しんだ清方は、好んで芝居絵を手がけた。その作品は「大鳥毛」のように伝統的な浮世絵を写したものだけではない。例えば、「芝居絵十二題」は舞台全体を描かず、観る者が自由に想像できるように日本画特有の余白を生かし、歌舞伎そのものの魅力を伝えようとしている。芝居に関わる作品、スケッチ、雑誌の挿絵などを展示し、清方の描いた芝居の世界を紹介した。

会期 平成 20 年 11 月 1 日(土)～平成 20 年 12 月 7 日(日) (開館日数:31 日)
 総入館者数 3,419 人(一日平均:110 人)



関連事業

- 「第三回鎌倉芸術祭」参加
- 美術講演会「清方の芝居絵」
- 【講師】松山薫氏(早稲田大学図書館員・元早稲田大学演劇博物館学芸員)
- 【日時】平成 20 年 11 月 11 日(火)13:30～15:00

関連記事

- 「鎌木清方記念美術館 特別展清方生誕 130 年記念「清方の芝居絵」
- (9 月 25 日、10 月 25 日、11 月 25 日 藤沢市の生涯学習情報誌 学びの道あんない)
- 「第 3 回鎌倉芸術祭 「特別展 清方生誕 130 年記念 清方の芝居絵」(10 月 1 日 広報かまくら)
- 「鎌倉市鎌木清方記念美術館特別展「清方の芝居絵」(11 月 1 日 鎌倉萌)
- 「おでかけコンシェルジュ アート 特別展清方生誕 130 年記念「清方の芝居絵」(11 月 1 日 エフィール)
- 「今月のおすすめ展覧会 清方の芝居絵」(10 月 20 日 美じゃん新報)
- 「鎌木清方記念美術館開館 10 周年「特別展 清方生誕 130 年記念～清方の芝居絵」(10 月 24 日 神奈川新聞)
- 「〇〇の秋といえば？鎌倉ではやはり「芸術の秋」です(10 月 26 日 ジェイシーエヌ・プラス)
- 「鎌木清方記念美術館 清方生誕 130 年記念「清方の芝居絵」(11 月 1 日 広報かまくら)
- 「鎌倉芸術祭 清方の芝居絵」(11 月 1 日 鎌倉朝日)
- 「神奈川マリオン 特別展「清方の芝居絵」(11 月 5 日 朝日新聞)
- 「清方生誕 130 年記念特別展 清方の芝居絵」(11 月 10 日 月刊展覧会ガイド)
- 「Friday かながわイベントガイド 特別展「清方の芝居絵」(11 月 14 日 読売新聞)
- 「和田塚の甘味と清方の日本画」(1・2 月合併号 ミスモリッシュ)
- 「平成 20 年度 鎌木清方記念美術館展示予定」(6 月 平成 20 年度版生涯学習ガイドブック)

出品作品

作品名	制作年	技法/材質・形状	サイズ	所蔵
芝居絵十二題	大正 15 年(1926)	紙本墨画淡彩・台紙(全 12 葉)		個人蔵
矢の根五郎	昭和 3 年(1928)	紙本着色・軸		個人蔵
助六曲輪菊	昭和 5 年(1930)	紙本墨画淡彩・軸		個人蔵

【所蔵品】

- 「道行浮埒鷗」「寺子屋画帖」「笠の曲(娘道成寺)」「早見の藤太」「金沢絵日記」「先代萩 一・二」「幕間(『清方美人画譜』)」「築地橋(『東京 築地川』)」「時代美人風俗雙六(『文藝俱樂部』附録)」
- 下絵 「舞踏道成寺」「お夏清十郎物語 第4・6図」「朝顔日記 第2・3図」
- 口絵 「お夏狂乱」「雪姫」「藤娘」「大鳥毛(『新小説』)」「助六(『俗曲評釈』)」「道成寺(『俗曲評釈』)」「對牛樓の旦那野(『演藝畫報』口絵、口絵差上げ)」「弁天小僧(『新小説』下絵)」
- 『新演藝』口絵「額の小さな」「箕輪心中の綾衣」「濡衣」「直侍」の千代春」「義経千本桜」の静御前
- 表紙 「藤娘(『文藝俱樂部』)」「葛の葉(『苦樂』表紙下絵)」「吉野山(『苦樂』)」「西鶴のお七(『苦樂』)」「高尾ざんげ(『苦樂』)」「道成寺(『苦樂』)」
- 「葛の葉(『演藝畫報』挿絵)」「呉文炳著『余沫集』函装丁」「鎌木清方著『こしかたの記』挿絵」
- 「弁天小僧(参考図版)」「写真(『演劇界』2003 年)(参考図版)」
- 『芝居絵に見る 江戸・明治の歌舞伎』(参考図版)

収蔵品展 「挿絵に見る清方の美」

鏑木清方は、水野年方に入門し、新聞小説を皮切りに挿絵を描いた。強い支持を受け『新小説』『文藝倶楽部』など一流の文芸雑誌や書籍の口絵、挿絵や装丁を依頼されて、多くの作品を生み出した。

木版や石版などの技法で刷られた口絵をはじめ、同時期に描かれた日本画を展示した。

会期 平成 20 年 12 月 11 日(木)～平成 12 月 21 日(日)

(開館日数:10 日)

総入館者数 620 人(一日平均:62 人)



関連記事

「鏑木清方記念美術館 収蔵品展「挿絵に見る清方の美」

(11 月 25 日 藤沢市の生涯学習情報誌 学びの道あんない)

「鏑木清方記念美術館 収蔵品展 挿絵に見る清方の美」(12 月 1 日 広報かまくら)

「美術館・文学館めぐり 鏑木清方記念美術館 挿絵に見る清方の美」(12 月 1 日 鎌倉朝日)

「平成 20 年度 鏑木清方記念美術館展示予定」(6 月 平成 20 年度版生涯学習ガイドブック)

出品作品

「寒月」「暮れゆく沼」「二人静」「慶喜恭順」「大蘇芳年」

「先師の面影(下絵)」「小説家と挿絵画家(下絵)」「慶喜恭順(スケッチ)」

口絵 「尾崎紅葉著『金色夜叉』續編(復刻版)」「あさ露(『文藝倶楽部』)」「ゆふ暮(『文藝倶楽部』)」「クリスマス(『少女界』)」「夜長(『文藝倶楽部』)」「白魚(『文藝倶楽部』)」「紅さす女(『文藝倶楽部』)」「渡邊霞亭著『渦巻』下編」「菊池幽芳著『小ゆき』後編」「炬燵(清方畫譜の十二)(『講談雑誌』)」

『新小説』口絵 「川上眉山著『店暖簾』」「前田曙山著『銅臭』(新緑)」

「廣津柳浪著『冬の夜話』」「廣津柳浪著『梅檀(せんだん)橋』(口絵、口絵校合摺)」

「泉鏡花著『紅雪録』」「泉鏡花著『胡蝶之曲』」

「後藤宙外著『波よ嵐よ』(口絵、口絵校合摺)」「後藤宙外著『悲しき矛盾』(口絵、口絵校合摺)」

「泉鏡花著『色暦』(口絵、口絵校合摺)」「小山内薫著『試験』(口絵、口絵校合摺)」「幕あひ」

表紙 「小春(『新小説』)」「冬の日(『新小説』)」「クリスマス(『少年界』)」「葡萄(『少女界』)」「赤蜻蛉(『少女界』)」「『婦人之友』(昭和 13 年 9 月號、11 月號、12 月號)」

挿絵 「高信狂酔著『女ごゝろ』(『文藝倶楽部』)」「神田伯龍講演『旗艦三笠の奮闘』(『文藝倶楽部』)」

「井手蕉雨著『血薔薇』(『文藝倶楽部』)」「小山内八千代著『みだれ』(『文藝倶楽部』)」

「泉鏡花著『靈象』(『文藝倶楽部』)」「牧牛舎桃林著『勝田新左衛門』(『文藝倶楽部』)」

「尾崎紅葉著『名作繪物語 金色夜叉』(『苦樂』)」「谷崎潤一郎著『過酸化マンガンの夢』」

「一畫一文(『鏑木清方文集 五 名所古跡』)」「鏑木清方著『褪春記』(『文藝春秋』)」

「鏑木清方著『繪に寄す』(『文藝春秋』)」「鏑木清方画『高野聖』(『文藝春秋』)」

「『長谷川時雨全集』第一卷 表紙・装丁」「長谷川時雨著『働くをんな』表紙・装丁」

「谷崎潤一郎著『幼少時代』挿絵・装丁」「谷崎潤一郎著『幼少時代』表紙」

水野年方口絵(『新小説』)「虎御前」「朝の雨(一情一景)」

「寛永寺 葵の間(『四月大歌舞伎 すじがき』)(参考図版)」

収藏品展 「清方芸術 羽子板になる」

「明治風俗十二ヶ月」は、清方が明治中ごろの市井の暮らしを各月ごとに主題を決めて描いたものである。この作品をもとに、押絵師・永井周山は、押絵羽子板を制作した。他にも「ためさるゝ日」や「春の夜のうらみ」などが押絵師によって羽子板になった。

清方の名作をもとにした押絵羽子板と、やわらかい色合いで春の情景を描いた「早春」など新春の雰囲気がたどよう作品を展示した。



会期 平成 21 年 1 月 4 日(日)～平成 21 年 2 月 1 日(日)

(開館日数:26 日)

総入館者数 2,081 人(一日平均:80 人)

関連記事

「鎌倉市鐮木清方記念美術館「清方芸術 羽子板になる」を開催」(1・2月合併号 ミスモリッシュ)

「でかけてみませんか！ 絵画美術館 鎌倉市鐮木清方記念美術館 / 収藏品展 「清方芸術 羽子板になる」」(12月 PLANET かながわ)

「今月のおすすめ展覧会 収藏品展 鐮木清方記念美術館」(12月20日 美じょん新報)

「鐮木清方記念美術館 収藏品展「清方芸術 羽子板になる」

(12月25日 藤沢市の生涯学習情報誌 学びの道あんない)

「鐮木清方記念美術館 収藏品展「清方芸術 羽子板になる」」(1月1日 広報かまくら)

「鎌倉市鐮木清方記念美術館収藏品展「清方芸術 羽子板になる」」(1月1日 鎌倉萌)

「羽子板で新春味わう 清方の名作、押し絵で再現」(1月7日 神奈川新聞)

「気になる情報 鎌倉市鐮木清方記念美術館」(1月9日 上毛新聞)

「明治の女性いきいきと「風俗十二ヶ月」など押し絵羽子板を展示」(1月13日 東京新聞)

「日本画家・鐮木清方の作品が羽子板に」(1月18日 湘南経済新聞モバイル)

「Friday かながわイベントガイド 収藏品展「清方芸術 羽子板になる」」(1月23日 読売新聞)

「平成 20 年度 鐮木清方記念美術館展示予定」(6月 平成 20 年度版生涯学習ガイドブック)

出品作品

「早春」「白梅」「大和路の或る家」「喜寿」「松のうち」「宝珠」「稚児桜(下絵)」「鉢植の梅松(試筆)」

押し絵羽子板「明治風俗十二ヶ月」「春の夜のうらみ」「ためさるゝ日」

『清方美人画譜』(「初雪」「島田くづし」「白壁」「湖のほとり」)

口絵 「都大路(『文藝界』)」「虎の門 見立十二姿の内(『新小説』)」「元日の朝(『婦人世界』)」「紅梅(『女學世界』)」「初東風(『大正婦人』)」「渡邊霞亭著『渦巻』續編」「初夢(清方畫譜の一)(『講談雑誌』)」

『中央公論』口絵 「南枝綻ぶ」「道成寺」「梅王丸」

『文藝俱樂部』口絵 「春を待つ」「餅むしろ」

『少女界』表紙 「きさらぎ」「看梅」

『苦樂』表紙 「春を待つ」「春を待つ(下絵)」「松ノ内」「松ノ内(下絵)」

「鐮木清方著「新江東圖説」(『中央公論』挿絵)」「鐮木清方著「かきぞめ」(『婦人之友』挿絵)」

「宝船 宝珠(『鐮木清方文集 四 春夏秋冬』)」

「軍国をんな雙六(『文藝俱樂部』附録)」「新案雙六當世二筋道(『文藝俱樂部』附録)」「齋崎英朋・鐮木清方合作新年大附録「松の内」(『文藝俱樂部』附録)」

「扇面に竹と梅(風呂敷)」「凧と梅(風呂敷)」「梅(ふくさ)」

「清方筆の羽子板」(参考図版『版画芸術』)

「ためさるゝ日(『鐮木清方展覧会・出品作・挿絵図録一官展への出品作一』)」(参考図版)

「春の夜のうらみ(『開館十周年記念図録』)」(参考図版)

収蔵品展 「清方美の誕生 一下絵等との比較一」

【第一期】

下絵は、スケッチや写生をもとに、構図や配色などを考え描かれる。何本もの線を引き、紙を貼るなどの修正を加え、画意が伝わるように表現を究めた痕跡を辿ることができる。修復を終えた「薄雪」の下絵を初公開し、肖像画を中心に、如月、弥生の季節の風物にまつわる作品を展示した。

会期 平成 21 年 2 月 7 日(土)～3 月 25 日(水)

(開館日数:40 日)

総入館者数 2,952 人(一日平均:73 人)



関連記事

「でかけてみませんか！ 絵画美術館 鎌倉市鐮木清方記念美術館 /

収蔵品展 「清方美の誕生一下絵等との比較一」(12 月 PLANET かながわ)

「鎌倉市鐮木清方記念美術館 収蔵品展「清方美の誕生一下絵等との比較一」第一期」

(12 月 三浦半島だより)

「鐮木清方記念美術館 収蔵品展「清方美の誕生一下絵等との比較一第一期」

(12 月 25 日、2 月 25 日 藤沢市の生涯学習情報誌 学びの道あんない)

「鎌倉市鐮木清方記念美術館 収蔵品展「清方美の誕生一下絵等との比較一(第一期)」(2 月 1 日、3 月 1 日 鎌倉萌)

「鐮木清方記念美術館 収蔵品展「清方美の誕生～下絵等との比較」(2 月 1 日 広報かまくら)

「はみ出し情報 鎌倉市鐮木清方記念美術館 収蔵品展 清方美の誕生」(2 月 1 日 江ノ電沿線新聞)

「神奈川マリオン 清方美の誕生一下絵等との比較(第一期)」(2 月 4 日、11 日 朝日新聞)

「情報パレット 収蔵品展「清方美の誕生」一下絵等との比較一」(2 月 7 日 湘南リビング新聞)

「今月のおすすめ展覧会 清方美の誕生一下絵等との比較一第一期」(2 月 10 日 美じょん新報)

「徹底した描写の繰り返しから生まれる線の美」(2 月 25 日 アートコレクター)

「鐮木清方の美探る 鎌倉で収蔵品展「薄雪」下絵を初公開」(2 月 28 日 神奈川新聞)

「平成 20 年度 鐮木清方記念美術館展示予定」(6 月 平成 20 年度版生涯学習ガイドブック)

「今年必見の展覧会 BEST200 鎌倉市鐮木清方記念美術館 清方美の誕生一下絵等との比較(第一期)」

(2 月 20 日美術の窓)

出品作品

「慶喜恭順」「先師の面影」「雨華庵風流」「白梅」「牡丹 一」「牡丹 二」

下絵 「薄雪」「雪暮夜入谷畦道」「慶喜恭順」「先師の面影」「三遊亭圓朝像」「たけくらべの美登利」「明治の女」

「初雁の御歌(小下絵)」「初雁の御歌」「雪旦」「江戸風俗」「木下川探梅」「たておやま」「下絵小見川の蜆」

「千葉の蛤」

スケッチ 「三遊亭圓朝像」「慶喜恭順」「能役者」「椿」「菜の花」「蕨」「犬張子」「桃」

口絵 「菊池幽芳著『小ゆき』後編」「浮いて鷗の(『講談雑誌』)」「瑞香(『新小説』)」「春の人」「初雪」「小田原の海」

「しら桃」「おしろ酒」

「雪積む宵」

『文藝倶楽部』口絵(「白魚」「汐干狩」「緋桃」「雛壇の下」)

「王子詣(『苦楽』表紙、下絵)」「紅梅屋敷(『苦楽』表紙、下絵)」「彌生(『苦楽』表紙、下絵)」

「紅椿(『苦楽』表紙)」「きさらぎ(『苦楽』表紙)」「雪(『苦楽』表紙)」「花嫁(校合摺)」

収蔵品展 「清方美の誕生 一下絵等との比較一」

【第二期】

当館では、清方作品のみならず、制作の過程を知るうえでも貴重な資料である下絵やスケッチも多く所蔵している。着彩してある作品ではわかり難い、力強い筆の運びや繊細な線の表現を下絵では鮮明に見てとることができる。

修復を終えた「野崎村」の下絵を初公開し、女性が描かれた下絵を中心に展示した。

会期 平成 21 年 3 月 28 日(土)～4 月 22 日(水)

(開館日数:22 日)

総入館者数 2,040 人(一日平均:92 人)



関連事業

「春休み子ども参加プログラム」

【テーマ】 鏑木清方のスケッチを模写しよう

【開催日時】 平成 21 年 4 月 2 日(木)・3 日(金)

「春休み親子鑑賞」

【開催期間】 平成 21 年 3 月 28 日(土)～4 月 5 日(日)

関連記事

「神奈川マリオン 清方美の誕生一下絵等との比較(第二期)」(2 月 11 日 朝日新聞)

「鎌倉市鏑木清方記念美術館 収蔵品展「清方美の誕生一下絵等との比較一」第 2 期」(3 月 三浦半島だより)

「鏑木清方記念美術館 収蔵品展 清方美の誕生一下絵等との比較一 第二期」(3 月 1 日 広報かまくら)

「美術館・文学館めぐり 鏑木清方記念美術館 美の誕生」(3 月 1 日 鎌倉朝日)

「今月のおすすめ展覧会 収蔵品展 清方美の誕生一下絵等との比較一(第二期)」(3 月 20 日 美じょん新報)

「鏑木清方記念美術館 収蔵品展「清方美の誕生一下絵等との比較一」第二期」

(3 月 25 日 藤沢市の生涯学習情報誌 学びの道あんない)

「収蔵品展 清方美の誕生一下絵等との比較(第二期)」(4 月 1 日 一枚の繪)

「Friday かながわイベントガイド 鏑木清方記念美術館 清方美の誕生一下絵等との比較(第二期)」

(4 月 14 日 読売新聞)

「平成 20 年度 鏑木清方記念美術館展示予定」(6 月 平成 20 年度版生涯学習ガイドブック)

出品作品

「浅みどり」「しだれ桜」「カルメン」「夏の柳井戸(柳乃井戸)」「僧房春蘭(牡丹の寺)」「春や昔」「朝夕安居 朝」

「女役者衆八」「桜乙女」

下絵 「春宵怨」「野崎村」「大川端」「水声」「讀春(小下絵)」「伽羅」「朝夕安居 朝」「女役者衆八」「明治の女」

「朝顔日記 朝顔の歌」「朝顔日記 明石船別れ」「野辺の女学生」「卯月の宵(小下絵)」

スケッチ 「夏の柳井戸」「僧房春蘭」「讀春」「舞妓(『苦樂』)」「春や昔」

『清方美人畫譜』(「春雨の寮」「午後海」「午後海(下絵)」「五月雨」)

「花吹雪(『文藝俱樂部』口絵)」「白鳥(『文藝俱樂部』口絵、校合摺、下絵)」「鸚鵡(『文藝俱樂部』口絵、下絵)」

「舞妓(『苦樂』表紙、下絵)」「宇治の螢(『苦樂』表紙、下絵)」「高尾ざんげ(『苦樂』表紙、下絵)」

「夏目漱石著『草枕』(『苦樂』表紙、下絵)」

『鏑木清方繪入本 御濠端』(「柳の井」「大手町附近」)